



フォーラムの舞台となる富士五湖地域

富士五湖自然首都圏フォーラム

富士山の世界遺産登録から今年で10周年。これに合わせて県は、富士五湖地域を自然豊かなリゾート地と首都圏機能が融合した先進的地域「自然首都圏」へと発展させるため、前例のない壮大な構想の実現に挑戦しています。

「ワーク・ライフスタイル」の転換

世界中で猛威を振るった新型コロナウィルスは、私たちの生活や働き方に大きな変化をもたらしました。豊かな自然の中で、日々音楽や芸術、スポーツを楽しみながら生活する。仕事はリモートワークを活用して首都圏の企業で働く。そんな「新たなワーク・ライフスタイル」を望む人が増えています。

東京圏に隣接しながら、豊かな自然に囲まれた山梨県は、このワーク・ライフスタイルを実現する大きな可能性を持っています。デジタル技術などによる最先端の首都圏機能と自然に恵まれた観光リゾート地を結び付けた地域「自然首都圏」へと発展することで、こうした人々をより多く本県に呼び込むことができます。

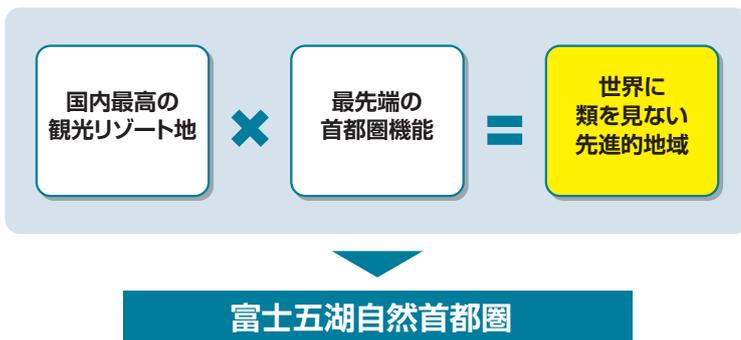
「富士五湖地域を「自然首都圏」へ

自然首都圏では、人や物、知識が活発に往来・循環し、絶えず新たな

価値が生み出されます。地域の価値が向上することで、さまざまな形で住民の豊かさ実感につながることを期待できます。

そこで県は、国内最高の観光リゾート地である富士五湖地域に、最先端の首都圏機能を結び付け、世界に類

山梨が目指す自然首都圏



「多彩なワーキンググループ」
フォーラムでは、自然首都圏の実現という共通目標を掲げて、交通、文化・芸術、教育などのワーキンググループ（WG）でさまざまな取り組みを進めていきます。
現在展開しているのは、全体のビジョンを議論する「自然首都圏構想WG」、電気・水素自動車や空飛ぶ自動車など、環境に配慮した交通手段

を見ない先進的地域「富士五湖自然首都圏」へと発展させるため、企業や行政、教育機関など、多様な主体と共に具体的な取り組みを議論し、実践していく協働組織体「富士五湖自然首都圏フォーラム」を、昨年12月に設立しました。



フォーラム設立の記者発表会。左から最高顧問の隈研吾さん、山東昭子さん、代表の長崎知事、代表代行の田坂広志さん（最高顧問には大村智さんも就任）

各ワーキンググループの取り組みのイメージ

- デジタル田園都市国家構想の推進
- 水素コミュニティの実証実験
- 交通環境の整備
- 観光生態系（湖畔マリナー・富士山一周トレイル）の充実

- 豊かな自然と首都機能が融合した海外都市との連携
- グローバル企業などのフォーラム参画を促進
- 国際的な知名度向上のための戦略的な広報活動

- 空の観光ビジネス・空飛ぶ自動車の実現
- 電気・水素自動車の導入
- 富士山登山鉄道構想の推進



へのシフトを目指す「富士五湖グリーンモビリティWG」、全国から若手芸術家や音楽家が集まる芸術の街を目指す「アートシティ富士五湖WG」、国際会議の開催や世界最先端の教育など、学問、文化・芸術、スポーツの中心的な場となることを目指す「富士五湖アカデミアWG」、地域の国際的な知名度をさらに高め、日本と世界の結び付きを深める「グローバル富士五湖WG」の5つです。各W

Gには県内外の企業や組織が参画し、取り組みを具体化するべく議論を重ねていきます。
地域の価値を高め県民の豊かさ
フォーラムでは、多様な知見や価値観を持つ人が集まり、さまざまなイノベーション（革新）が起きます。そして、生み出された先進的な取り組みは地域の価値を高め、県民の皆さんの豊かさにつながることでしょう。

県は、フォーラムをきっかけに、富士五湖地域を世界から注目される自然首都圏へと発展させ、富士山や富士五湖地域、ひいては山梨県全体のさらなる価値向上を目指し、取り組みを進めていきます。

富士五湖自然首都圏フォーラムの詳細はこちら



フォーラム設立に寄せて

東京を中心とする現在の首都圏が、人口の過密化で居住環境の快適性が失われている今、この富士五湖地域が、豊かな自然の中で暮らしながら、首都圏の民間企業や公的組織と結び付いて働ける、新たな「自然首都圏」になっっていくことが求められています。

このフォーラムは、県内・国内・海外から、先進的で意欲的な民間企業や公的組織、教育機関や研究機関、芸術団体やスポーツ団体、社会貢献組織や市民団体、メディアや市民が数多く参加し、さまざまなプロジェクトが、創発的・創造的に生まれていく場です。すでに、多くの企業や組織が、続々と参加し、活動されています。



田坂 広志さん
富士五湖自然首都圏フォーラム 代表代行 山梨県 顧問
多摩大学大学院 名誉教授
シンクタンク・ソフィアバンク 代表